

播州地方の社寺林の植生 (1)

杉 田 隆 三

播州地方の森林の大部分は二次林か人工植生で、沿岸部ではクロマツ林、内陸部ではアカマツ林、繰返し伐採の行われたところではコナラクヌギ林となっている。さらに奥地ではスギ、ヒノキの人工林となっている。このような中で比較的自然植生が残っているのは各地の神社や寺院の森であり、その組成を明らかにすることにより、私達はその地域の潜在自然植生を推定する手掛りを得ることができる。

幸い、筆者は播磨内陸植生調査 (1972)、環境保全調査による県下の植生調査 (1973) など播州各地の社寺林 55箇所の資料を得たので、そのうちから主なものを選び植生の概要を報告する。巨木については建部 恵潤氏の「兵庫県宍粟郡と近接地の植物文化財」を御覧いただきたい。なお、植物群落学的なまとめは、さらに資料を集めて検討を加えたいと思っている。

末尾ながら御指導をうけた神戸大学中西哲教授、一部資料を提供下さった家永善文、橋本光政の両氏、調査に協力いただいた福田又男、建部 恵潤、内海功一、岩谷成彦、尾崎好靖、佐野駿介の各氏に深く感謝する。

1. 大山寺 寺叢

赤穂郡上郡町 (海拔280m)

付近一帯の大開発からかろうじて残された自然状態をほぼ維持している林である。高木層にはスダジイが優占するが部分的にはモミの多い場所もある。その組成よりみてスダジイ・ヤブコウジ群集 (鈴木時夫・1952) に属するものと思われる。組成の一例を次に示す。数字はプラン・プランケの総合優占度である。

高木層 スダジイ (4) モミ (1) スギ (+)

亜高木層 ヤブツバキ (2) カクレミノ (1) アラカシ、ネズミモチ (+)

低木層 ヒサカキ (1) モチノキ、ヤブムラサキ、カナメモチ、アオキ、イヌツゲ (+)

草本層 ベニシダ (1) サルトリイバラ、テイカカズラ、ナガバジャノヒゲ、ヤブコウジ、イタビカズラ、マンリョウ、ヤブニッケイ、ビナンカズラ、ヘクソカズラ、ヤマノイモ、ツルグミ (+)

2. 高嶺神社 社叢

赤穂郡上郡町天王山 (海拔215m)

高木層にはスダジイが優占し、ケヤキ、モミ、アラカシ、そしてヒノキの植林が混在している。その組成から

見るとイヌマキの存在によりスダジイ・ヤブコウジ群集に属するようである。

本殿裏の組成を次に示す。

高木層 スダジイ (2) ヒノキ (2) アベマキ (1)

亜高木層 スダジイ (1) ヒノキ (1) サカキ、ソヨゴノアラカシ、ネジキ (+)

低木層 スダジイ (4) イヌマキ、アオキ、ネズミモチ、カゴノキ (+)

草本層 ヤブコウジ (3) ハカタシダ、カクレミノ、コウヤボウキ、ヤブツバキ、ベニシダ、トウゲシバ、テイカカズラ、ジャノヒゲ、ヒイラギ、ナツフジ、ヘクソカズラ、ツルアリドオシ、サルトリイバラ、ツルリンドウ (+)

3. 大避神社 社叢

佐用郡上月町久崎 (海拔120m)

西播地方特産のコヤスノキの産地としては個体数の多い点では天然記念物に指定されている上郡町岩木の大避神社にまさると思われる。

本殿東の林分の組成を次に示す。

高木層 モミ、アベマキ、ケヤキ (1) アラカシ、カヤ (+)

亜高木層 ヤブツバキ、カゴノキ (1) ヤブニッケイ、ヒイラギ (+)

低木層 コヤスノキ (3) アオキ (2) ナンテン、ナナメノキ、ナツフジ、ヒサカキ、ヤブムラサキ (+)

草本層 テイカカズラ、ナガバジャノヒゲ (1) ソヨゴ、キヅタ、シュンラン、ヤブコウジ、ナツツタ、ハリギリ、マンリョウ (+)

4. 八幡神社 社叢

佐用郡佐用町下石井 (海拔260m)

かなりモウソウチクが混在しているが、高木層にはシラカシが優占し、低木層にはナンテン、チャノキなどシラカシ群集 (宮脇・大場・1965) の標徴種が存在することにより、シラカシ群集に属することは明らかである。

胸高周囲588cmのケヤキ、胸高周囲302cmのシラカシ、チトセカズラの存在も注目すべきである。

社殿裏手の組成を次に示す。

高木層 シラカシ (3) ケヤキ、モミ、スギ、ヒノキ (1)

- 亜高木層 モウソウチク (2) シラカシ (2) カヤ
スギ、ヒノキ、ヤブツバキ (1)
- 低木層 アオキ (3) シラカシ、ヤブツバキ (2)
ヤブムラサキ (1) チャノキ、シロダモ、ア
ラカシ、サカキ、ヤマハゼ、ヤブサンザシ、イ
ボタノキ、タラノキ、ヤダケ (+)
- 草本層 テイカカズラ (3) ヤブラン、シャガ、キ
ヅタ、フユイチゴ、イワガネソウ、ヤブコウ
ジ、チヂミザサ、ナンテン (1) ベニシダ、
ナガバジャノヒゲ、ヤブソテツ、チトセカズ
ラ、ヘクソカズラ、ナワシログミ (+)

5. 奥海神社 社叢

佐用郡佐用町奥海 (海拔440m)

日名倉キャンプ場へ行く途中にある立派なウラジログ
シ・シラカシ林である。高木層にはウラジログシ、シラ
カシが優占し、低木層にはアオキ、ウジログシ、シラカ
シが、草本層にはテイカカズラが優占している。

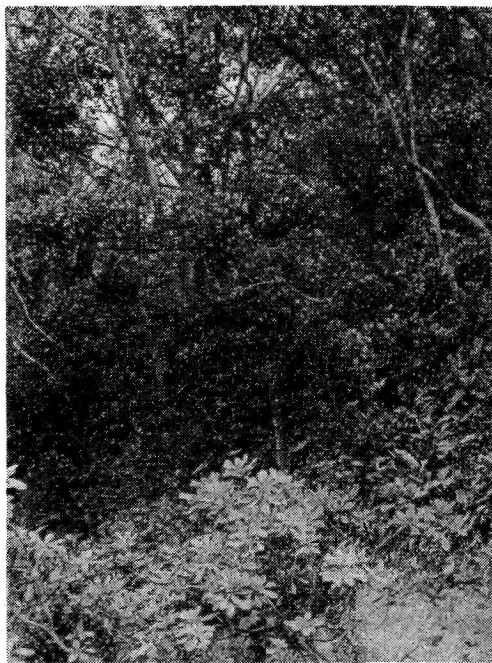
シラカシ、ナンテンの存在からシラカシ群集にあてる
こともできるようだし、ウラジログシ、ヤマイタチシダ
の存在からウラジログシ群落にあてることもできるよ
うに思う。

- 高木層 ウラジログシ、シラカシ (3) スギ (1)
- 亜高木層 シラカシ (2) ヒサカキ、ヤブツバキ、ク
サギ、ケンボナシ、フサザクラ、タラノキ、カ
ラスザンショウ、ヤブニッケイ、スギ (1)
- 低木層 アオキ (3) シラカシ、ウラジログシ (2)
スズタケ、シラキ、ナンテン、ミヤマハハソ、
ハナイカダ、ウワミズザクラ (1) シロダモ
カヤ、イヌガヤ、ミヤマガマズミ、キブシ、ツ
リバナ、アブラチャン、ミヤマウグイスカグラ
(+)
- 草本層 テイカカズラ (3) ニシノホンモンジスゲ
(2) ナガバジャノヒゲ、イタビカズラ、ヤ
ブコウジ、ヤマイタチシダ、クマワラビ、イヌ
ワラビ、ツヅラフジ、ヤマアイ、チトセカズラ
(1) ラショウモンカズラ、ヤブソテツ、シ
ュンラン、ヤブラン、イナモリソウ、フタバア
オイ、ミヨウガ、チヂミザサ、フユイチゴ、イ
ロハモミジ、ナガバモミジイチゴ、オオモミジ
(+)

6. 加茂神社 社叢

揖保郡御津町室津 (海拔20m)

県下に残された数少ないウバメガシ林の一つである。
播州地方の社寺林で立派なウバメガシ林がみられるのは
この森と家島の天神の森とである。元来、ウバメガシ林
は四国、紀州、瀬戸内海の海岸崖状地にみられる土地的



写真No. 1 加茂神社・ウバメガシトベラ群集

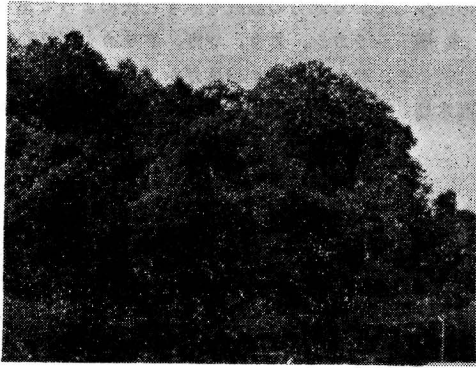
極相林であるが、ここでも海に面した崖状地に成立して
いる。高木層にはウバメガシが優占し、ヒメユズリハ、
モッコクが混生している。その下には群集標微種である
マサキ、トベラ、ツワブキ、オニヤブソテツ、イヌビワ
がみられ、ウバメガシトベラ群集 (鈴木時夫・蜂屋・
1951) に属することは明らかである。組成の一例を次に
示す。

- 高木層 ウバメガシ (5) ヒメユズリハ、モッコク
(2) アラカシ (1)
- 亜高木層 トベラ (3) ヤブツバキ、カクレミノ (2)
サカキ (1) アラカシ (+)
- 低木層 メダケ (3) ネズミモチ、ヤブニッケイ
(2) ヤブツバキ、マサキ、トベラ、カクレ
ミノ (1) イヌビワ、クチナシ (+)
- 草本層 ヒトツバ (4) テイカカズラ (2) トベ
ラ、ツワブキ、オニヤブソテツ、ヤブラン、サ
イトウガヤ、タキキビ (1)

7. 加茂神社 社叢

揖保郡揖保川町袋尻

アベマキは山陽地方にはよくみられる落葉高木である
が、この神社の森のように大木が多くあるのは稀ではな
かろうか。社叢の中心は背山の西北部であるが、高木層
にはアベマキが優占し、ついでモチノキが多い。亜高木
層にはカクレミノが優占し、ネジキ、シャシャンボがこ
れに次ぐ。ネジキも大木がある。草本層にはベニシダが



写真No. 2 加茂神社全景

優占し、つる植物としてはテイカカズラ、クズ、ピナンカズラがあるが、テイカカズラには根周27cmのもの、クズには周囲18cmのものもある。この林は現在アベマキが優占しているが、その組成からみると潜在的にはシイ林である。次に組成の一例を示す。

高木層 アベマキ(4) モチノキ(3) クリ(2)
ヒノキ、ナナメノキ、ウラジロノキ、アズキナシ(1)

亜高木層 カクレミノ(3) モチノキ、シャシャンボ
ネジキ(2) モッコク、ヤブツバキ(1)
ソヨゴ、アラカシ(+)

低木層 ヤブツバキ、カクレミノ、サカキ(2) ヒ
サカキ、ヤブニッケイ(1)

草本層 ベニシダ(2) マンリョウ(1) ナガバ
ジャノヒゲ、テイカカズラ、シュンラン、サル
トリイバラ、ピナンカズラ、シシガシラ、ヤブ
ラン、センリョウ、イヌマキ(+)

8. 井関三神社 社叢

竜野市中垣内(海拔100m)

竜野市近辺で立派なシイ林が残っているのは、鶏籠山とここだけである。高木層はコジイ、スダジイが優占し直径30~40cmのものが40本近くはあろう。この林はコジイが優占し、カナメモチも多く、ナツフジ、シャシャボの存在するところからコジイ-カナメモチ群集(中西・矢野・杉田1973)にはいるものと思われる。しかし、周囲がアカマツ林であるため、かなりアカマツ林の要素もみられる。次に組成を示す。

高木層 コジイ(4) スダジイ(2) ヒノキ(1)
亜高木層 コジイ(3) カナメモチ(2) リョウブ
(1) ネジキ(1) ヒノキ(+)

低木層 コジイ、シロバナウンゼンツツジ(3) カ
ナメモチ(2) アラカシ、アセビ、コバノミ
ツバツツジ、カクレミノ、スノキ、サカキ、ヒ
サカキ、ソヨゴ、ネジキ、シャシャンボ(1)

ヤブツバキ、ツクバネウツギ、ヤマハゼ、ヤマ
フジ(+)

草本層 コシダ(3) ヤブコウジ(2) ナツフジ、
サルトリイバラ、ヤブラン、シシガシラ、ノキ
シノブ(+)

9. 五社大明神 社叢

宍粟郡山崎町大沢(海拔320m)

チトセカズラの自生地としては有数のものである。高木層にはシラカシが優占し、林床にナンテン、チャノキ、シュロが見られることより、シラカシ群集に属することは明らかである。組成の一例を示すと次のようである。

高木層 シラカシ(5) ムクノキ(2) アラカシ
(1)

亜高木層 ヤブツバキ(2) オオモミジ、ヌルデ、ケ
ンボナシ(1)

低木層 アオキ、ナンテン、ヤダケ(2) チャノキ、
シラカシ、コシアブラ、ヒサカキ(1) クサ
ギ、イヌガヤ、ヤブムラサキ、コンテリギ、セ
ンノキ、イヌツゲ、ウド、タラノキ(+)

草本層 ベニシダ、キツタ、チトセカズラ、フユイチ
ゴ(2) ナガバジャノヒゲ、イノコズチ、ヤ
ブコウジ(1) イワガネソウ、シュロ、ムベ、
オカタツナミソウ、チヂミザサ、シシガシラ、
シュンラン、ヒメワラビ、ミゾシダ、ノキシノ
ブ、イタドリ、チゴユリ(+)

10. 松尾神社 社叢

宍粟郡山崎町葛根(海拔210m)

水田にかこまれた森であるが、高木層にはカヤが優占し、これにスギ、アラカシ、ケヤキ、ムクノキが混生している。亜高木層、低木層にはヤブツバキが優占し、ヒイラギ、イロハモミジ、シキミなどがみられる。モミはみられないがカヤが優占し、シキミ、ヒイラギが存在するのでモミ-シキミ群集(鈴木時夫・蜂屋・1961)に属するように思われる。しかし、この群集は一般に尾根部や斜面上部に発達するものであり、一方、ムクノキ、イロハモミジ、ケヤキなどイロハモミジ-ケヤキ群集の区分種がかなり存在するので、宮脇昭・藤原一絵(1970)が大坂箕面でみとめたイロハモミジ-ケヤキ群集にあてられることも考えられる。

高木層 カヤ(4) スギ(2) アラカシ、ケヤキ
ムクノキ(1)

亜高木層 ヤブツバキ(3) ヒヒラギ、カヤ、イロハ
モミジ、ケヤキ、サカキ、ウワミズザクラ、ヒ
ノキ(1)

低木層 ヤブツバキ(3) アオキ、チャノキ(2)
クサギ、クロモジ、ケヤキ、ヒサカキ、アラカ

シ (1) シキミ, シロダモ, コウゾ, ムラサキシキブ, カマツカ, イヌツゲ, クサイチゴ, コクサギ (+)

草本層 テイカカズラ (4) キツタ, ナツツタ, ベニシダ (2) ヤブラン, フユイチゴ, チヂミザサ, ナキリスゲ, ヤブコウジ, シンミズヒキ, ギボウシの1種 (1) シシガシラ, ヤマイヌワラビ, オモト, アオмамシ, サルトリイバラ, ウバユリ, ヤブソテツ, ネザサ (+)

11. 栃原天満宮 社叢

宍粟郡安富町栃原 (海拔260m)

斜面中腹に存在する見事なシイ林であり, 大木が約40株ある。高木層にはスダジイが優占し, ほかにヤブツバキ, サカキ, アラカシ, ツクバネガシ, タラヨウ, イヌシデ, ケヤキなどの大木が混生している。亜高木層, 低木層にはヤブツバキが優占し, 草本層にはテイカカズラが優占しているが両層ともやや貧弱である。この森はスダジイ-ヤブコウジ群集に属するものと思われる。社殿右手斜面の組成を次に示す。

高木層 スダジイ (5) ヤブツバキ (3) サカキ (2) イヌシデ, アラカシ, ツクバネガシ (1)

亜高木層 サカキ, ヤブツバキ (2) リョウブ (1)

低木層 ヤブツバキ (2) ソヨゴ, ネズミモチ, ナガバジュズネノキ, アオキ, ヒサカキ, シキミ (1) ヤブムラサキ, アセビ, ナンテン, クロモジ, ナワシログミ, リョウブ, コンテリギ (+)

草本層 テイカカズラ (2) ヤブコウジ, ベニシダ, ナガバジャノヒゲ, イチヤクソウ, ヘクソカズラ, マメツタ (1) サイハイラン, ビナンカズラ, ナツツタ, ツルウメモドキ, シシガシラ, ツルリンドウ, ヤブラン, キツタ, トウゲシバ, シュンラン, ヤブソテツ (+)

12. 水尾神社 社叢

宍粟郡安富町関 (海拔300m)

山足にある森で, 高木層にはシラカシ, カヤ, ツガ, カゴノキ, ケヤキ, ツクバネガシ, モミ, アラカシが混生している。亜高木層にはシラカシ, ヤブツバキ, カヤ, イタヤカエデ, オオモミジ, イロハモミジなどがあり, 低木層にはウラジログシ, シラカシ, ツクバネガシ, アラカシの幼樹やサカキ, イヌガシなどがある。草本層にはテイカカズラが優占している。場所によりモミが優占する所, シラカシが優占する所, カヤ, ツガの優占する所があるが, 全体としてはモミ, カヤ, アセビ, シキミの結びつきを考えると, モミーシキミ群集にはいるのではなかろうか。シラカシ, モミ, カヤ, ツクバネガ

シの混生している部分の組成を示すと次のようである。
高木層 シラカシ, カヤ, ツガ, アラカシ (2) モミ, ケヤキ, ツクバネガシ, カゴノキ (1)

亜高木層 シラカシ (3) ヤブツバキ, カヤ, イタヤカエデ (2) トチノキ, オオモミジ, サカキ, ツガ, ホホノキ, ツクバネガシ, イロハモミジ (1)

低木層 シラカシ, サカキ (3) アオキ, ネズミモチ, ミヤマシキミ, ツクバネガシ, アラカシ (2) ユズリハ, ヒサカキ, アセビ, イヌガシ, リンボク (1) ヤブニッケイ, シキミ (+) マメツタ (着生) (3)

草本層 テイカカズラ (3) ベニシダ (1) ショウジョウスゲ, キツタ, フユイチゴ, クサイチゴ, ニシノホンモンジスゲ, ヤブコウジ (1) トウゲシバ, ツルアリドウシ, ナンテン, カナワラビ, シシガシラ, シュンラン, コウヤボウキ, ノキシノブ, トラノオシダ (+)

13. 矢倉神社 社叢

宍粟郡安富町皆河

林田川に接した山麓にある。高木層にはツクバネガシが優占し, 胸高周囲 350cmの大木もある。亜高木層, 低木層にはサカキ, ヤブツバキが優占し, 草本層にはヤブコウジが優占している。ツクバネガシ, ヤブツバキ, ヤブコウジが優占するものとして, 四国でツクバネガシ-ヤブツバキ-ヤブコウジ基群集 (山中・1962) が認められているが, ここではあてはまらないと思う。やはり, ここではウラジログシ, カヤ, モミ, シキミ, アセビの組合せを考えて, モミーシキミ群集にあてるのが適当ではないかと思う。

高木層 ツクバネガシ (3) アラカシ (2) アカシデ, カヤ, ヒノキ, スギ, ケヤキ (1)

亜高木層 サカキ (3) ヤブツバキ (2) ネジキ, リョウブ (1) イヌシデ, コシアブラ (+)

低木層 ヤブツバキ, サカキ, ツクバネガシ (2) アオキ, カナメモチ, コシアブラ, ヒサカキ, アラカシ, ヤダケ, イズセンリョウ (1) ヤマモミジ, アセビ, モミ, クリ, クロモジ, シキミ, ミツバアケビ (+)

草本層 ヤブコウジ, テイカカズラ, ヒトツバ, キツタ, シュンラン (1) フユイチゴ, ナガバジャノヒゲ, ヤブラン, ベニシダ, イヌツゲ, マメツタ, リンボク, ホソバトウゲシバ, オオバアサガラ, ソヨゴ, ヤマウルシ, コウヤボウキ, ササクサ, ヌリトラノオ, シシガシラ, エビネ, オオキジノオシダ, ジュウモンジシダ, ミヤマノコギリシダ (+) (以下次号)